

研究内容の説明文

献血者説明用課題名※ (括弧内は申請課題名)	献血会場での転倒を検知するAIの作成 (献血会場内の転倒予知におけるAIの有用性の評価)
研究期間(西暦)	2024年4月1日～2027年3月31日
研究機関名	東京都赤十字血液センター
研究責任者職氏名	事業推進二部 副部長 難波 寛子

研究の説明

1 研究の目的・意義・予測される研究の成果等

献血後に気分が悪くなり、まれに気を失って転倒することがあり、失神して転倒すると、頭部などを強く打撲して重篤な怪我をする可能性があります。

献血会場内で転倒が発生した場合、早い段階で職員が転倒に気が付けば体を支えることにより重篤な怪我を防ぐことができます。この研究では、早い段階で転倒を発見してアラートするAIを作成することを目的とします。

AIの作成に際しては、AIに転倒の際の人間の体の動きを教えるために、実際の転倒の映像を教師データ(AIが学習に使用するデータ)として用いる必要があります。2023年10月1日以降、献血後に献血会場内で転倒された方のうち、転倒された際の映像が防犯カメラにより撮影できた方について、転倒された際の映像をAIの教師データとして使用させて頂く可能性があります。

AIの教師データとして使用する場合も、映像は東京都赤十字血液センター内で本研究に従事する限られた職員のみが閲覧可能で、AI作成のいかなる段階でも担当職員以外が映像を閲覧することはありません。また、東京都赤十字血液センター外で映像が閲覧されることはなく、血液センターの外へ映像が提供されることもありません。

2 使用する献血血液等の種類・情報の項目

献血血液等の種類：なし

献血血液等の情報：2023年10月から2027年3月までの期間に献血会場内で転倒した際に防犯カメラに記録された映像

3 献血血液等を使用する共同研究機関及びその研究責任者氏名

なし

4 献血血液等の利用を開始する予定日

2024年10月30日

(2024年10月30日以降に記録された映像は記録された日から1か月経過後)

5 研究方法《献血血液等の具体的な使用目的・方法含む》

献血血液等のヒト遺伝子解析：■行いません。 □行います。

《研究方法》

献血ルーム内で記録された転倒の際の防犯カメラ映像をAIに学習させることに

より転倒を予知する AI を作成します。作成された AI を用いて献血ルーム内の防犯カメラ映像を解析し転倒の予知を試み、実際に使用可能かどうか検討します。

- 6 献血血液等の使用への拒否について
教師データの調整が終了する予定の令和 6 年 10 月 30 日まで（2024 年 10 月 30 日以降に記録された映像は記録された日から 1 か月経過後まで）にお申し出を頂いた場合は映像の使用を拒否することができます。
- 7 上記 6 を受け付ける方法
下記の問い合わせ先に、映像の利用について拒否する旨を申し出ください。

本研究に関する問い合わせ先

所属	東京都赤十字血液センター
担当者	難波 寛子
電話	03-5272-3532
Mail	n-namba@ktxs.bbc.jrc.or.jp